



突き抜ける初夏の晴天に向かい立ち昇る炎、大行満大阿闍梨が世界平和と人々の幸せを祈る



発行所 比叡山時報社
〒650-0116 大津市坂本本町4220
電話 077-578-0001
077-578-0002
077-578-0003
077-578-0004
077-578-0005
077-578-0006
077-578-0007
077-578-0008
077-578-0009
077-578-0010
077-578-0011
077-578-0012
077-578-0013
077-578-0014
077-578-0015
077-578-0016
077-578-0017
077-578-0018
077-578-0019
077-578-0020

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中
に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和5年比叡山から
発信する言葉
真の心を開き発す



ホームページから

ご購入は延暦寺

去る5月20日、21日の両日、比叡の大護摩の法要を勤めました。時あたかも先進七カ国首脳会議が広島で開催され、19日には各国首脳が原爆死者慰霊碑の前で祈りを捧げる様子が報道されました。比叡山でも多くの参列随喜の方々と共に世界平和を祈り、除災招福の祈りを捧げることができましたこと、厚く感謝申し上げます。

さて、護摩供とはインドの原語で「ホーマ」とい、漢字で音写して護摩、意味は「火の中に投げ入れること」です。インドの婆羅門(祭司)が神々を供養するために火を作り火を燃やし供物を火に投じ、諸願の成就を祈る祭儀「ホーマ」が、仏教の密教でも行われてきたものです。神々と人間とのやり取りとしての祭儀は、神に

お供え物をし、それによって人間の願いを叶えてもらうという素朴な心情に発するものであると思われま。護摩供は特にそのお供え物が火によって燃やされて無くなることにより、神に確実に届けられたと感じることが出来ます。火もまた神の一員で火天として供物を届ける役割を担います。火を燃やす火天の口ということになります。

本尊となる神にこの火の所まで来て頂き、火天の口を通して本尊に供物を届けて供養する。その時に供物を捧げる祈りの言葉が、真言、呪文の最後に唱える「薩婆訶」(スパーハー)という決まり文句です。

密教の護摩供では、更に大事な考え方が加わるとされます。火に投ぜられる供物は本尊へのお供え物であると同時に煩惱を表しているのです。その煩惱は行者及び願主、引いてはすべての衆生の煩惱であり、それを智慧を表す火、智火で焼き尽くすのです。注ぐ油は光明という智慧を表すと共に、根本煩惱であるむ貪り、無明を表し、五穀米、大麦、小麦、小豆、大豆、など)は覚者が備える五つの功德であると同時に貪、瞋、痴、慢、疑の五煩惱を表すとされます。梗米、芥子、胡麻の供物は、善を増大、悪を降伏、災いを消滅(息災)させるものであると共に、それぞれ貪、瞋、痴の三つの根本煩惱を表しています。

現実の火の中で燃やされているものは、油であり五穀などの供物です。この火の中で起こっていることが本尊の方ではその力の増大に働き、一切衆生を含んだ行者の側では煩惱の焼尽に働くわけです。行者は現実の火の中の火を司り、同時に本尊と行者に働きかけています。観想の文には「三処同一体なり、大壇即ち護摩、護摩即ち己身、己身即ち火天、火天即ち大日なり」とあります。本尊の居られる大壇と行者の身体、火天の火(護摩)、この三処が同じであると観想することによって、実際の火によって護摩壇の火で起こることが、本尊の大壇でも行者の己身でも実際の現実となると云うこととなります。

行者と願主には煩惱の焼尽がもたらされ、本尊の側には衆生済度の誓願の成就が約束されるでしょう。通常の護摩供は堂内の限られた空間である道場で行われますが、野外での大護摩は、多くの人と願主、そして行者が身口意の三密行(合掌し、真言を唱え、本尊を想う)を共にすることにより、より大きな功德をもたらすのです。世の中の、争いのない平安のために、貪り、怒り、無知の根本の煩惱を智慧の炎で焼き尽くし、仏天の加護の力を蒙って、祈りと共にその歩みを一歩一歩進めていきたいものです。

争いのない平安のために

「比叡の大護摩」新たな形で出発

新緑の比叡で2日間をかけた大護摩供奉修 世界平和へ祈りの輪さらに大きく

諸宗教指導者が比叡山に集い、世界平和のために祈りを捧げた「比叡山宗教サミット」の精神を継承し、北嶺回峰行者が世界平和と防災祈福を祈る「比叡の大護摩」が、5月20日、21日の両日、比叡山西塔峰道の伝教大師尊像前にて奉修された。令和3年以来2年振りとなる大護摩供は新たな形でスタートし、両日で約2000人が参列。人々の願いが込められた約3万5千本の護摩木が北嶺回峰行者により立ち昇る炎へと授けられた。

ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世聖年の提唱により、1986年10月、イタリアの聖地アッシジにて、世界の諸宗教指導者による世界平和を希求する祈りが捧げられた。比叡山延暦寺ではその精神を継承し、昭和62年(1987)に、世界の代表的宗教指導者を比叡山上に招き「世界宗教者平和の祈りの集い(比叡山宗教サミット)」を開催した。

比叡山上から世界平和を祈る

「寛容と奉仕」の行楽践へのつながりを願い、「21世紀に向け比叡山が果たすべき大きな課題」として、その翌年、より多くの人と平和への祈りの輪を共有するために修されたことを始まりとする。

法要は比叡山の「三天地獄」の一つと例えられる荒行「北嶺千日回峰行」を満行し、大行満大阿闍梨となった名の大阿闍梨を導師に、全国より比叡山に北嶺回峰行者が集結して各地から寄せられた膨大な量の護摩木を焼き上げ、世界平和と共に各々の諸願成就が祈られた。

5月20日(土)第一日目 天空へと立ち昇る炎に願いを託す



5月20日(土)

- 10:30～ 藤波源信大阿闍梨
- 13:00～ 光永圓道大阿闍梨
- 14:30～ 光永圓道大阿闍梨

5月21日(日)

- 10:30～ 上原行照大阿闍梨
- 13:00～ 叡南浩元大阿闍梨
- 14:30～ 叡南浩元大阿闍梨



炎舞に身を焦がしながら修す護摩行

第一座 藤波源信 大阿闍梨



不滅の法燈を奉安



水尾叔芳延暦寺執行(挨拶)

「祈ることこそが、行動と言葉を生み出す源です。多くの人と心を一つにし、お互いに祈りを共有することによって、意味のある行動へと繋がります。宗祖伝教大師が山上からお祈りになられたのは、人々の安寧と争いの無い平和な世界の実現でした。伝教大師の祈りに心を同じくして、ここからも皆々共々人々のために祈りを捧げて行きたい。」



護摩木に願いを書き込む

第二、三座 光永圓道 大阿闍梨



5月21日(日)第二日目

世界平和の実現と心身の安寧を祈る



大阿闍梨による立印加持

第一座 上原行照 大阿闍梨



法要後の行者による数珠加持

会場には両日とも数珠製作体験ワークショップ(写真上)やスイーツ、イチゴ蒲団、チトマト等の店頭販売が行われ、催事に彩りが加えられた。



第二、三座 叡南浩元 大阿闍梨

